

正の連鎖^{スパイラル}

P T Aの皆様方には、本校教育への御理解・本校発展への惜しめない御協力を賜り、感謝してもしきれない思いであります。

昨年 11 月の岸田文雄内閣総理大臣の本校訪問については、昨年度の「青柳」に記しました。この視察は全国で報道され、首相官邸H Pにも動画が掲載されましたが、翌 12 月 6 日の所信表明演説でも触れられ、「黒板とノートの代わりに、電子黒板と一人一台配布されているタブレットを使った授業。初めての経験でした。先生が出す課題に、オンラインで回答する。英語を読み上げ、録音で発音を確認する。次々に出される課題に戸惑う私に、少し困った表情を浮かべながら、一生懸命タブレットの操作を教えてくれたのは、隣の席に座った、高校 1 年生の生徒でした。まだ、授業で本格的に使い始めて間もないタブレットを使いこなし、受け身でなく、自分から行動する姿に、日本の未来を切り拓く、『人』の可能性を強く感じました。」との御発言があり、改めて脚光を浴びました。その後、内閣広報室が外国人向けに作成している季刊誌「KIZUNA」の本年春号（Spring2022）の表紙及び本文に、模擬授業の様子が掲載され、Key Policy Issues の一つとして、「だれ一人取り残さないための I C T環境の公平な整備」との記事になっております。さらに、日本経済新聞夕刊（令和 4 年 4 月 18 日）の「なるほど！ルーツ調査隊」の黒板の歴史特集で、は「電子黒板を使った授業を岸田総理が体験」と本校生徒が写真入りで登場するという予想外の反響もありました。

ボート部や女子将棋の全国優勝だけでなく、こういった教育活動を P T Aの皆様や全国の先輩諸氏に巧まずしてお伝えできることはとてもありがたいことだと思います。国事業として 8 年間、国際理解教育に取り組んだ成果の一つでもあります。当事業も昨年度末で終了する運びとなりました。とはいえ、これまで蓄積してきた学びのスキルや大学、地域との連携等を継承すべきと判断し、「松山東高グローバル事業」を創設して本校独自予算で引き続き、生徒の学力・人間力の向上を期することといたしました。

このほか、社会の変容に柔軟に対応しながら総合的な人間力を涵養するために、今年度に向けて準備した細やかな 4 つの取組みがございます。

一つは、制服にスラックスという選択肢を加え、スカートとの併用を可能としたこと。松山市内中学校の動きを捉えながら、この 4 月に間に合うように準備しました。二つ目は、これに付随して、「EAST エシカルトイレ」の整備。体調や性別、性自認に関係なく、気軽に使えるものとして、主に生徒の皆さん向けに改修しました。

三つ目は、体育館への空調の整備。P T Aの御協力を得て、液化天然ガスによるクリーンな運転を行い、今日的課題に対応いたします。

最後に、「三好志奈ボランティア基金」による中庭への街灯の設置。夜間の安全を見守るこの灯を見て、生徒の皆さんが気高き先輩を思い起こしてくださればという思いがあります。

これらのいずれについても、また今春卒業生の難関大学の進学実績についても、P T Aの皆様方との連携や御理解なしには成立し得ないものと考えております。本校では、こういった「正の連鎖^{スパイラル}」の起点となる種を蒔き、引き続き生徒の皆さんの自主性を尊重しながら全力でサポートし、新時代を切り拓くような、生徒の皆さんの未来に大いに期待しておりますので、今後とも御支援くださいますようお願いいたします。